

報告事項ク

企画展「殿様の愛した禅 ^{おうぼく}黄檗文化とその名宝」の開催について

企画展「殿様の愛した禅 ^{おうぼく}黄檗文化とその名宝」の開催について、別紙のとおり報告します。

令和元年9月11日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

企画展「殿様の愛した禅 黄檗(おうばく)文化とその名宝」の開催について

令和元年9月11日
博 物 館

企画展「殿様の愛した禅 黄檗(おうばく)文化とその名宝」を下記のとおり開催します。

1 概 要

黄檗宗は、承応3年(1654)に中国から長崎へ渡来した隠元隆琦(いんげんりゅうき)禅師によって開立された禅宗の一派です。隠元がもたらした黄檗の禅風は当時の宗教界に衝撃を与え、隠元や全国の黄檗寺院が伝えた「明朝体」「木魚」「煎茶」など明・清の中国文化は、後世の日本文化に大きな影響を与えました。

最新の仏教とその文化を伝える黄檗宗は、将軍や大名ら権力者の心を捉え、鳥取藩32万石の初代藩主池田光仲も黄檗宗に帰依した大名の一人で、以降、歴代藩主は黄檗宗を宗旨としました。鳥取には、隠元の京都妙心寺への招請運動を展開したひとりである提宗慧全(ていじゅうえぜん)、その弟子で初期黄檗宗を語るうえでかかせない名僧鉄牛道機、さらに江戸の黄檗寺院の基礎文献『江戸黄檗禅刹記』を記した池田冠山(かんざん)など、黄檗宗の歴史・文化を語る上で欠かせない人物も多く存在します。

本展覧会では、大本山萬福寺が所蔵する黄檗禅林の書画の名品を紹介し、黄檗に帰依した全国の大名家たちについて展示し、さらに、黄檗の大檀越である鳥取藩主池田家とその領国である因幡・伯耆の黄檗宗の展開について歴史資料をもとに紐解き、これまで触れられることのなかった黄檗と鳥取との関わりについて明らかにします。

2 会 期 令和元年10月5日(土)～11月4日(月・振休) 休館日:10月21日(月)

開館時間:午前9時から午後5時まで

3 会 場 鳥取県立博物館第1、第2特別展示室

4 入館料 一般700円(前売・団体・70歳以上・大学生500円)

※次の方は無料。高校生以下の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者

5 主 催 「黄檗」実行委員会(鳥取県立博物館、山陰中央テレビジョン放送株式会社)

6 展示構成

プロローグ 黄檗って何?

1章 隠元禅師の来日と黄檗禅林の美

①黄檗派の伝来 ②隠元禅師ゆかりの名宝と黄檗禅林の書画 ③黄檗文化とその影響

2章 黄檗に魅せられた全国の殿様たち

3章 黄檗の雄 鳥取藩主池田家と興禅寺

①初代藩主池田光仲と提宗慧全 ②鳥取・江戸二つの菩提寺(興禅寺と弘福寺)
③興禅寺ゆかりの藩主肖像と仏像全部見せます

4章 因幡・伯耆の黄檗寺院

①藩主池田家の葬送と池田家墓所 ②鳥取藩筆頭家老荒尾家と了春寺
③因伯の黄檗寺院今昔

7 関連事業

10/5 開会式(黄檗青年僧の会による梵唄、県立八頭高等学校書道部による書道パフォーマンス等)

10/5 特別講演会(錦織亮介氏「黄檗宗と明清文化の流行」)

10/13 古地図ぶらり(栗谷編)

10/20 黄檗リレートーク(米谷均氏、山下真由美氏、担当学芸員ほか)

10/27 煎茶を楽しむ会

10/6, 10/12, 10/20, 11/4 ギャラリートーク

OBAKU



若冲も
池田光仲も
みんな大好き
おうばく。

殿様の愛した禅

黄檗文化とその名宝

2019 10.5 [土] → 11.4 [月・振]
休館日：10月21日[月]

【開館時間】午前9時～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで
【会場】鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
【観覧料】一般：700円、前売り・団体・大学生・70才以上の方：500円
※次の方は無料。高校生以下の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者

【主催】「黄檗」実行委員会(鳥取県立博物館、山陰中央テレビジョン放送株式会社)
【協賛】日本通運 株式会社モリックスジャパン 株式会社吉備総合電設 三和商事株式会社
【特別協力】黄檗山萬福寺、龍峰山興禅寺

中央下から時計回りに：善多元福「願元隆瑞像」(当館蔵)、光沢元明「鉄牛遺像」(京都府・浄住寺蔵)、善多元福「数蓮性基像」(浜松市・宝林寺蔵)、
「池田光仲像」(高館蔵)、「鎮西元武像」(佐賀県・小城市・玉壺寺蔵)、福岡「費種通存像」(宇治市・萬福寺蔵)、善多元福「関長政像」(岡山県・新見市・
西光寺蔵)、伊藤若冲「龍庵冷然像」(真福寺蔵)、善多元福「黄檗明和尚像」(伊予県・一乗寺蔵)、「黄檗寺蔵」(足利屋全像)(真福寺蔵)



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2-124 Tel:0857-26-8042 <https://www.pref.tottori.jp/museum/>



明朝体(フオント)、
原稿用紙、木魚、煎茶、
普茶料理、いんげん豆は
わしが伝えたのじや。

喜多元規(隠元隆琦像)当館蔵

Q1 「黄檗」って何？

黄檗(宗)とは、**隠元隆琦**という中国人の僧が立てた禅宗の一派です。鎖国体制下、**承応3年(1654)**に長崎へ渡来し、寛文元年(1661)京都宇治の地に中国風の**黄檗山萬福寺**をつくりました。

隠元とその弟子たちが伝えた中国文化は、将軍や大名のみならず庶民にとってもあこがれの外来文化でした。

Q2 鳥取と黄檗宗との関係は？

鳥取藩32万石の初代藩主**池田光仲**が黄檗宗を信仰し、その後藩内に広まり、最盛期には**30ヶ寺**を超える黄檗寺院が存在しました。また、池田家の菩提寺である興禅寺は、仙台湾の**大年寺**、萩藩の**東光寺**と並ぶ「黄檗三叢林」と称される日本有数の黄檗寺院でした。

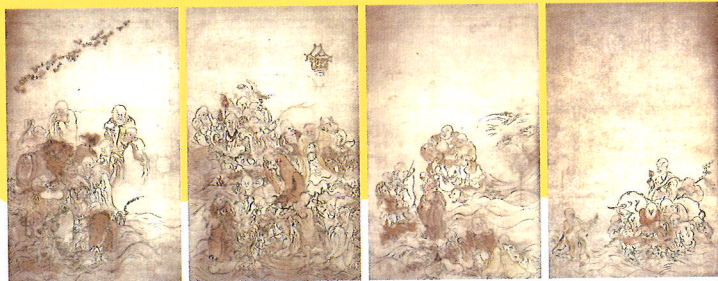
米子城代で鳥取藩筆頭家老の**米子荒尾家**以下、たくさんの鳥取藩士たちも黄檗を信仰していました。



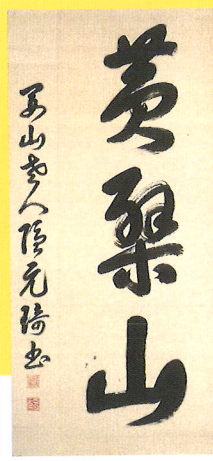
「池田光仲像」当館蔵

Q3 みどころは？

- 黄檗僧の肖像画(頂相)**。黄檗以前の肖像画は斜め向きに描かれるものでしたが、黄檗のものは正面向きで、顔は陰影を付けて正確に描かれました。そのリアルさは見る者を圧倒します。(表を参照)
- 隠元の書**。江戸時代、黄檗僧の書いた文字は「唐様」と呼ばれ、一世を風靡しました。
- 黄檗ゆかりの名画**。だれもが知る伊藤若冲や池田大雅など黄檗ゆかりの画家の作品は必見です。表の白黒の肖像が若冲作です。
- 歴史マニア垂涎!** 歴代鳥取藩主肖像画と位牌が150年ぶり奇跡の再会! 興禅寺の黄檗様の仏像もほぼ出陣されます。



池大雅「五百羅漢図」(高福寺蔵、重要文化財)



隠元「黄檗山」(高福寺蔵、重要文化財)

関連プログラム

▶スペシャルオープニングイベント

日時：10月5日(土) 午前10時から正午
会場：博物館エントランスホール、展示会場
【申込不要、参加無料】

- ◎黄檗青年僧の会による梵唄(ぼんばい)
- ◎鳥取県立八頭高等学校書道部による書道パフォーマンス
- ◎開会式
- ◎担当学芸員による展示解説
※展示解説への参加は観覧料が必要

▶黄檗美術研究第一人者による特別講演会

日時：10月6日(日) 午後2時から午後3時30分
会場：博物館2階講堂 【申込不要、参加無料】
◎講師 錦織亮介氏
(前福岡市美術館長、北九州市立大学名誉教授)
◎タイトル「黄檗宗と明清文化の流行」

▶黄檗と鳥取の関係をやさしくひも解きリレートーク

日時：10月20日(日) 午後1時から4時
会場：博物館2階講堂 【申込不要、参加無料】
◎大嶋陽一(当館職員)
「藩主菩提寺興禅寺と因伯の黄檗寺院」
◎山下真由美氏(細見美術館)
「興禅寺の涅槃図について」
◎米谷均氏(早稲田大学)「黄檗僧と因伯寺社の鐘銘」

体験講座

▶黄檗の風薫る栗谷と興禅寺周辺を古地図ぶらり

日時：10月13日(日) 午前10時から正午
会場：鳥取市栗谷町界限(集合、興禅寺)
定員：15名[9/26から電話による事前申込開始、参加費無料]

▶隠元さんが伝えた煎茶体験(2回開催)

日時：10月27日(日)
◎第1回/午前10時から正午
◎第2回/午後1時30分から午後3時30分
会場：博物館会議室
定員：各回20名
【10/10から電話による事前申込開始、参加費300円】



▶担当者による黄檗トーク(5回開催)

日時：10月6日(日)、12日(土)、20日(日)
午前10時30分から11時30分
11月4日(月・祝)
午前10時30分から11時30分、午後2時から3時
会場：展覧会場 【要入場料】

お問い合わせお申し込み先 TEL.0857-26-8044

次回展覧会予告「塩谷定好とその時代」 2019年11月16日(土)~12月15日(日)



交通のご案内

- ◎JR鳥取駅からバスで
●100円バス「くる梨(緑コース)」で「@仁風閣・県立博物館」下車すぐ
- ループ麒麟獅子「@鳥取城跡」下車すぐ
- 砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
- 市内回り岩倉、中河原方面行「わらべ館前」下車約600m
- ◎JR鳥取駅からタクシーで…約10分
- ◎鳥取空港から…鳥取駅行連絡バスで「西町」下車約400m
- ◎お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分

※当館駐車場40台駐車可能
堀端・県庁北側(土・日・祝日のみ)・県庁の駐車場も利用できます。